

御坂うまいもの会 公開確認会 (2015年9月4日) 監査報告

パルシステム生活協同組合連合会新農業委員会

パルシステム山梨は9月4日(木)、山梨県にある産直産地、御坂うまいもの会の「巨峰」を対象に公開確認会を開催しました。新エコ・チャレンジ基準に対応した栽培状況と品質向上の取組を確認しました。

■生産者と消費者 66 名が参加

「御坂うまいもの会公開確認会」は、山梨県笛吹市の「笛吹市御坂農村環境改善センター」を会場に、パルシステム山梨の主催で開催されました。当日は天候にも恵まれ、会員生協や関東近郊の産直産地など、総勢 66 名が参加しました。

御坂うまいもの会は 1985 年にパルシステム神奈川ゆめコープの前身であるけんぼく生協の職員との出会いから有機農法に関心を持ち、「御坂自然農法研究会」として 2 名で説立されました。1989 年にはパルシステム東京の前身である E コープ・ジョイコープと取引が始まり、会員も 6 名に増え、現在は 8 名の会員がいます。笛吹市がある甲府盆地の南東部は全国でも屈指の果樹地帯で、土壌は傾斜地で水はけが良く、盆地気候により日中暑く夜は冷えるため、果樹栽培に適した場所です。2014 年に続き、2 回目の公開確認会となりました。

開会に際し、パルシステム山梨白川恵子理事長からは「公開確認会は帳票や圃場を確認しますが、重箱の隅をつつくようなものではなく、自分たちの食を支える生産者を知り、産地や地域を応援するものです。ここで学んだことを自分たちの消費行動につなげて行くことが公開確認会の意義です。今の日本で農業を続けることがどれだけ大変かをお互いに理解したうえで、消費や生産について考える機会にしたいと思います。」、御坂うまいもの会雨宮政彦代表からは「今回の公開確認会は新エコ・チャレンジ基準を理解していただくことがひとつのテーマとなりますが、『品質向上』や『おいしさ』などを改めて見つめなおして行く機会にもなります。また、5 年後 10 年後の産地作りをどのようにしていくかという『産地ビジョン』構築へのきっかけになる公開確認会だと思っています。」とそれぞれ挨拶がありました。

■新エコ・チャレンジ基準、品質向上への取組

はじめに、4月10日に行われた事前監査について、草生栽培などで新エコ・チャレンジ基準に沿った栽培をしていること、巨峰の圃場では、環境保全型農業を実践していることや農薬の飛散対策としてネットを設置していることなどが確認できた旨報告がありました。

続いて御坂うまいもの会常田政年氏より、産地概要、事業内容、作業行程(ぶどう、桃)、新エコ・チャレンジ基準の取組、産地の活動紹介、将来の産地ビジョン等についてプレゼンテーションが行なわれました。事業方針には、「新エコ・チャレンジ基準に対応した栽培を目指すこと、組合員に満足してもらえる品質の維持と向上を目指すこと」が定められています。2014 年度の出荷量でパルシステム向けが全体の 60% になっていること、主な生産物は桃・ぶどう・すももであることが紹介されました。

また、新エコ・チャレンジ基準と品質向上の取組について報告が行なわれました。桃・ぶどうともに、今年度の出荷分から山梨県特別栽培農産物に係わるガイドラインに準じた栽培となっています。農薬の使用回数は県の慣行栽培の半分以下に抑えています。農薬の使用が少ない分天候によっては病気になりやすいこと、出荷に際してのパック作業に手間を掛けていること、ぶどうについてはパック出荷の際に実が裂けたり房から取れやすいこと、出荷に際しては「目揃え会」を行い品質のバラつきを抑えていること等栽培や出荷に際しての苦労が紹介されました。

補足として株式会社ジーピーエス果実課の松本齊氏から桃の品質向上についての説明を行ないました。今年梅雨の時期の雨量が例年より多かったものの、梅雨明けに気温が一気に上昇し干ばつ状態であったこと、セットセンター入荷時に傷みなどで廃棄する割合が減少したこと、しかし、組合員に届いた時点での傷み等の申告は増加したことが報告されました。これは、多雨の影響で桃が大きくやわらかかったのでセットセンター入荷以降に傷みが発生した事例が多くなったと考えられること、生産者はできるだけ長く収穫を待って糖度を上げようとしていること、これらのことを産地と共に改善点を探していくことが報告されました。

その後質疑応答が行なわれました。女性部・若手の登用や今後のビジョンについての質問に対しては、前回の確認会をきっかけに女性部を設立し、男性とは違った視点で産地を PR していること、自分たちは先駆者として若手が活躍できるような機会を作っていきたいとのことでした。農薬使用回数を抑える工夫についての質問に対しては、土壌や樹の状態を整えることが大事で、年数をかけて薬に頼らない土壌作り・樹作りを心がけているとの事でした。

帳票類の確認、女性部の紹介、昼食の後、2 グループに分かれて巨峰と桃の圃場、共同出荷場及び保管庫兼作業場を視察しました。

ぶどうの圃場では生産者の斉藤祥太氏から今年の栽培状況について説明がありました。昼夜の寒暖差によってぶどうの色がついてきますが、今年はその寒暖差がなく色づきが良くないとのこと。木の高さは180cmで作っていますが実がつくと重みで下がり、女性が作業するのにちょうどよい高さになるそうです。

桃の圃場では生産者の池田成美氏から、現在樹になっている桃は7月下旬から約50日間消毒をしていないとのことでした。また共同出荷場では、セットセンターへの出荷前の検品後、帳票に出荷者の名前を記入しているとのこと。保管庫兼作業場では、斉藤氏から農薬の管理や出荷作業の方法について説明がありました。

■今後の進化に期待

視察後、質疑応答や参加者からの感想の後、監査人からの所見報告がありました。

監査人からは「うまいもの会の理念である『おいしく、安全、安心なものの栽培』にもとづき、生産者一人ひとりが自信を持って栽培していることを実感し、これからも自分たちは組合員として、食べること・買うことで生産者を支えていきたいと思いました。」「天候不順の今年、生産者の方が苦勞されているということが理解できました。作業場はとてもきれいに整頓されていて、農薬もきれいに置かれていたので、とても安心して見ることができました。」と所見が述べられました。

パルシステム生産者・消費者協議会果樹部会の鳥居啓宣氏（ジョイファーム小田原）は「作業場で気づいたことがありました。農薬の保管庫は整頓されていましたが、農薬以外のものは入れないほうがよいと思います。御坂うまいもの会の取組みですごいと思ったのは、全員週1回、出荷品の生産者とは別の人がチェックしているという点です。産地ですべてをチェックするのは大変なことで、御坂ができてるのはすばらしい。農薬削減をしているとロスが出て収益が落ちるものですが、御坂の桃とぶどうは、生産者の立場から見てもかなりよくやっていると感じます。」と述べました。

パルシステム連合会島田朝彰産直部長は「桃、ぶどうは、減農薬が非常に難しい品目です。その中で、新エコ・チャレンジ基準をこれだけきちんと実行できているのは、産地のまじめさや技術レベルの高さによると、あらためてしっかりと認識できました。傷みが出ない硬さでの出荷なのか、届いたときにおいしく食べてもらえる熟度の出荷なのかは、いつも悩むところですが、当番制のチェック体制や、ジーピーエスからの返品を全員で確認するなどの取り組みをしている御坂うまいもの会の今後の進化を期待したいと思います。今日、確認させていただいた御坂うまいもの会の取り組みや努力を、周りの方に是非伝えてほしいと思います。」とまとめました。

産地受け止めとして、雨宮代表からは「参加された組合員の皆様も、この場で聞いたこと、『ぶどう作り・桃作りの物語』を、生産者の側の立場に立って、是非周りの組合員の方に伝えてほしいと思います。指摘された事項はすぐに改善しようと思います。」と述べました。

最後にパルシステム山梨黒田健二常勤理事から「山梨県内で農薬を減らした栽培は、野菜では進んでいますが、果樹は遅れています。これからも農薬削減の取り組みを進めて、御坂うまいもの会の皆さんにはビジョンにある規模拡大を含めながら、もっと県内地域に出ていって仲間を増やしてほしいと思います。」と閉会の挨拶があり、公開確認会は終了しました。



▲パルシステム山梨白川恵子理事長



▲御坂うまいもの会雨宮政彦代表



▲ぶどうの圃場説明



▲作業場の説明



▲女性部からの報告



▲ぶどう圃場視察の様子

御坂うまいもの会 公開確認会 所見のまとめ

1、産地の理念・事業内容について

- ・合致している。
- ・環境保全型農業、地域農業の振興、農業技術の向上、持続可能な農業経営、安心、安全なものを生産することを目的としている。
- ・継続した経営を目指し、安心安全な桃・ぶどう・すももを生産する。
- ・地域農業の振興のために努力し、消費者においしく安心安全な桃・ぶどう・すももを生産。

2、産地の組織や意思決定について

- ・8名の会員が定期的集い、情報交換をしている。
- ・タブレット端末を使い、情報を共有している。
- ・毎年1回反省会をし、みんなの合意、共通の認識のもと事業計画を決める。

3、産地の栽培基準について

- ・果樹の中でも農薬を削減することが難しい、桃、ぶどうの栽培に取り組んでいることがよくわかった。
- ・新エコ・チャレンジ基準で栽培している。
- ・削減目標農薬、除草剤、土壌くん蒸剤を使用せずに栽培している。
- ・山梨県特別栽培農産物に係わる表示ガイドラインに基づいた取り組みを行っている。農薬使用回数はガイドラインより5割以上削減している。

4、栽培の実践について

- ・独自の生産工程内部規定書をもとに生産の取り組みを8人が理解し、適切に記録、栽培されていた。
- ・F-net（栽培情報を管理する、パルシステム独自のシステム）を使って記録管理を行っている。
- ・籾殻や伐採した枝を灰にし、それをたい肥にしている。
- ・土作りのための堆肥は、会で指定している牧場から共同購入（10aあたり2t）している。
- ・除草剤を使用しない、草生栽培を実践している。
- ・ぶどうの枝を留めるテープは、生分解性のものを使用している。
- ・年間防除計画を元に、農薬はまとめて購入している。未使用や残った農薬については、有効期限内のものは次年度にまわしている。

- ・農薬の保管庫は、農薬以外のものは入れないようにした方がよい。

5、表示・出荷について

- ・出荷の時には、「目揃え会」をしている。
- ・生産者同士で検品を行っている。検品結果を各生産者に報告し、不良品は差し替え、品質のよい物を出荷している。
- ・集荷場に農産物を集めて8人で品質について検品、格付け、出荷記録を適切にチェックしている。
- ・すべての新エコ・チャレンジ基準で栽培しているので、ほかの基準で栽培したものが混入することがない。
- ・出荷作業場は整頓され、作業しやすくなっている。生産者カードは、品種、品目別に分けて保管されている。特性や食べ方など記した食べごろお知らせシールを作成して、組合員に食べ方などを知らせる工夫を行っている。
- ・生産物ごとに包材を変えたり、何十種類もの生産者カードを使い分けている。
- ・作業場の確認事項、出荷予定をカレンダーに記入している。
- ・作業手順書が作られていた。
- ・ぶどうの実割れ防止として、緩衝材を多く入れるなどの対策をとっている。
- ・収穫した桃が雨に濡れないようにテントや作業場で選別している。

6、その他

- ・品質向上の取り組みは、とくに力を入れている。そして栽培技術の高さも理解できた。
- ・農薬飛散対策として圃場周辺にネットを使用している。
- ・リジェクトされた商品写真を確認し、品質向上のための取り組みを行っている。
- ・生産者の奥様方で、構成されている女性部がジャム作りなどの加工品への事業参入、海外（タイ）への販路拡大を目指している。
- ・産地交流や出前講座を行っている。
- ・6次産業化を進めている。
- ・各種フォーラムに参加している。
- ・海外の研修も受け入れている。
- ・クレーム発生時には、会議をして共有している。わかりやすく写真で残している。
- ・生産者の女性部（桃娘隊）による組合員との交流会を年1回秋に行い、食材はパルシステムの物を使用している。
- ・使用済み資材は、環境に配慮した物を使用し、農薬は専門業者に依頼し処理されている。

監査人名簿

1	パルシステム山梨	組合員	雨宮 亮子
2	パルシステム山梨	理事	甘利 順子
3	パルシステム山梨	理事	古家 滋子
4	パルシステム生産者・消費者協議会	果樹部会	鳥居 啓宣
5	パルシステム連合会	産直部長	島田 朝彰

※ 監査シートの自由記載欄に記入いただいた内容を下記に掲載しました。

* 編集の都合で、加筆・修正している箇所があります。

- ・今年は天候不順のため、栽培にはご苦労が多かったことと思います。
- ・おいしく、安全・安心なものを栽培するという理念に基づき、生産者お一人おひとりが高い技術で自信を持って栽培されていることを強く感じる事ができました。うまいもの会の取り組みを、組合員に伝えて行きたいと思います。
- ・しっかりしたビジョンを持って、常に情報を共有していることがわかりました。8名の方々の一人ひとりの人柄のよさと、チームワークのよさが、作物に表れているのだと思った。新エコ・チャレンジにこだわって、栽培していることに感謝したいと思う。
- ・一般の生産者さんより確実に熟度が高く、糖度があり、傷まないように努力し、消費者の立場になり、安心して安全なものを・・・とがんばっている姿に胸が打たれました。安心して安全なおいしいものをいただけることに、御坂うまいもの会の生産者さんに感謝したいです。（試食の桃は、大きくてみずみずしく、大変おいしかったです。ジャムも酸味が程よく、いろいろなものに合うと思います。）